



示語の使用についても同様のことが言えよう。

二、三、四、五については、向上している。五は、「段落の区切りが正しく、主題要旨の明確な文章を書く」力をみる問題であるが、これは、段落の構成、文章構成の指導を、読解と、作文との関連をはかって、適切におこなうことによって伸びるものと思われる。

六は、「内容にあった文体を使って書き分ける」問題である。2が下がっているが、それでも74%の高い数値である。

この領域では、6つの分野について、14の問題が出されている。4問が下降しているが、上昇しているものが多い。

一には、「文章の中で接続語を正しく使う」力をみる問題と、「文章の中で指示語を正しく使う」力をみる問題が、提出されている。あ・いは、接続語の正しい使い方の問題であるが、下降している。接続語の指導については、読解の中で、一文、一文の正確な読みとり、文と文との関係は握を通して、接続語の使い方を理解させ、作文の指導においては、その意識的な使い方に慣れさせるようにしたいものである。指